

Title	D社製品開発業務の高付加価値化に関する考察
Sub Title	
Author	岩田龍司(Iwata, Tatsushi) 河野宏和
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1996
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1996年度経営学 第1238号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001996-1238">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001996-1238</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

岩田 龍司  
(大同特殊鋼株式会社)

主査 河野 宏和

副査 小野桂之介

山根 節

所属

河野 宏和 研究室

## D社製品開発業務の高付加価値化に関する考察

D社は、特殊鋼を製造販売する専門メーカーとして、創業以来80年の歴史を持つ企業である。しかし、特殊鋼市場の停滞や競合環境の激化によって、D社の業績はここ数年低迷を続けている。また、内部特性としては、既存製品や長期取引先に依存しがちで旧態依然とした非効率な体質を有している。こうした背景から、D社には、①既存事業での競争力強化、②新規事業の開拓、③経営効率の向上、といった経営課題があり、これらの課題を解決していくためには、製品開発力の向上とホワイトカラーの生産性向上が必須であり、それらを同時実現させるべく、付加価値の高い製品を作り出す過程を再検討する必要がある。こうした問題意識の下、本研究の目的は、D社における製品開発体制の問題点・課題の調査を通じて、製品開発業務の高付加価値化の実現に向けた具体的な提言を行うことである。

本論では、D社内と顧客へのインタビューおよび社内資料調査などから、①製品開発体制の実態調査、②内在する問題点の抽出と構造化、③改善提案に向けてのパターン分析、④具体的な提言、という順序で研究を進めてきた。特に、製品開発プロセスにおける外部関係主体とのやり取りや技術情報の流れに着目しながら、実態調査と問題点の把握に努めた。また、最終的な提言では、各々の改善提案の実現度と目標時期を整理し、提案実現のために必要な統合的マネジメントについて言及している。

こうした調査・研究を通じての成果として、①一律化した改善提案ではなく製品市場性によって分類したパターン別の対応が必要なこと、②個々の改善提案はその構造化に基づいた段階的な実施が必要なこと、③製品開発力の根源である業務機能向上と生産性向上の同時実現が可能なこと、という三点が導き出された。また、調査・研究の過程から、①高付加価値の源泉となるキープロセスの抽出、②間接業務の生産性向上に対してのミクロな視点での取り組み、という二点が、判断・思考・情報伝達といった頭脳作業を伴う間接業務の改善活動において重要な意味を持つことが明らかになった。